



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年11月9日
上場取引所 東 名

上場会社名 東陽倉庫株式会社
コード番号 9306 URL <http://www.toyo-logistics.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 武藤 正春
問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員経理部長 (氏名) 渡邊 誠 TEL 052-581-0251
四半期報告書提出予定日 平成28年11月11日 配当支払開始予定日 平成28年12月5日
四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	12,695	3.5	457	43.0	552	28.4	409	47.2
28年3月期第2四半期	12,269	9.0	319	△12.0	430	5.8	277	△3.3

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 540百万円 (69.2%) 28年3月期第2四半期 319百万円 (△22.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	10.74	—
28年3月期第2四半期	7.30	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	37,500	17,304	46.1
28年3月期	37,460	16,870	45.0

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 17,304百万円 28年3月期 16,870百万円

(注) 第1四半期連結会計期間より金融商品に関する実務指針に定める要件を満たす金融資産と金融負債を相殺表示する方法に変更したため、前連結会計年度末は当該会計方針の変更を反映した数値を記載しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	3.50	—	3.00	6.50
29年3月期	—	3.50	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	3.00	6.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,200	1.6	770	7.5	920	0.7	640	1.3	16.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 有

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(注) 詳細は、添付資料P. 3「(2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期2Q	39,324,953株	28年3月期	39,324,953株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	1,247,194株	28年3月期	1,246,261株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期2Q	38,078,278株	28年3月期2Q	38,083,596株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成28年5月11日に公表いたしました連結業績予想について、平成28年10月27日付「業績予想の修正に関するお知らせ」において修正しておりますので、そちらをご参照下さい。

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	5
第2四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、輸出や生産が緩やかに増加し、設備投資も引き続き増加傾向にありました。個人消費は、労働需給が引き締まり雇用・所得環境が着実に改善しているものの、一部に弱めの動きがみられました。

物流業界の貨物取扱量は、国内貨物は、年初より取扱量が前年と比べ、飲料、食料工業品など増加傾向にあったものの、電気機械などが減少傾向にあり、軟調に推移いたしました。輸出貨物は、完成自動車や産業機械が減少いたしました。一方、輸入貨物は、LNGや鉄鉱石等が減少いたしました。在庫量は期間を通じて前年と比べほぼ横這いで推移いたしました。

このような事業環境の下、当社グループは、“「もの」づくりと人の「暮らし」を支える”総合物流企業として、社会と人々の生活に役立つという理念の下、より一層の営業力の強化と業務品質の向上を図るとともに、経営の効率化を推進し経費の節減に努めてまいりました。

事業のセグメント別及び連結の業績は次のとおりであります。

<国内物流事業>

前連結会計年度に開設した物流センターが期首から収益に貢献しました。また、3PL物流及び流通加工の取扱いが堅調に推移する中、営業活動をさらに強化したこと等により、営業収益は前年同四半期と比べ420百万円(5.8%)増加し、7,663百万円となり、セグメント利益は前年同四半期と比べ13百万円(2.5%)増加し、560百万円となりました。

<国際物流事業>

名古屋港における輸出入貨物の荷動きはやや低調に推移したものの、前連結会計年度に開設した物流センターが期首から利益に貢献したこと、及び、事業の効率化をより一層推進したこと等により、営業収益は前年同四半期と比べ18百万円(0.4%)増加し、4,887百万円となり、セグメント利益は前年同四半期と比べ105百万円(238.0%)増加し、150百万円となりました。

<不動産事業>

請負工事の受注減少により、営業収益は前年同四半期と比べ12百万円(△8.2%)減少し、144百万円となったものの、経費の削減等により、セグメント利益は前年同四半期と比べ2百万円(3.4%)増加し、63百万円となりました。

<連結>

上記の結果、営業収益は前年同四半期と比べ426百万円(3.5%)増加し、12,695百万円となりました。営業利益は事業の効率化をより一層推進したこと等により、前年同四半期と比べ137百万円(43.0%)増加し、457百万円となりました。経常利益は持分法による投資利益が減少したものの、金融収支の改善等により、前年同四半期と比べ122百万円(28.4%)増加し、552百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期と比べ131百万円(47.2%)増加し、409百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、有形固定資産が340百万円、及び、無形固定資産が34百万円それぞれ減少したものの、受取手形及び営業未収入金が339百万円、及び、現金及び預金が82百万円それぞれ増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ39百万円(0.1%)増加し、37,500百万円となりました。

負債につきましては、支払手形及び営業未払金が109百万円増加したものの、借入金328百万円、及び、退職給付に係る負債が82百万円それぞれ減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ395百万円(△1.9%)減少し、20,195百万円となりました。

純資産につきましては、利益剰余金が303百万円、及び、その他有価証券評価差額金が84百万円それぞれ増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ434百万円(2.6%)増加し、17,304百万円となりました。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日。以下「回収可能性適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間から適用し、繰延税金資産の回収可能性に関する会計処理の方法の一部を見直しております。

回収可能性適用指針の適用については、回収可能性適用指針第49項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点において回収可能性適用指針第49項(3)①から③に該当する定めを適用した場合の繰延税金資産及び繰延税金負債の額と、前連結会計年度末の繰延税金資産及び繰延税金負債の額との差額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加算しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首において、繰延税金資産(投資その他の資産)が8百万円、利益剰余金が8百万円それぞれ増加しております。

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更が当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に及ぼす影響は軽微であります。

(金融資産と金融負債の会計処理の変更)

当社グループは、主に流通加工業務に係る営業債権債務において、金融資産及び金融負債を総額で計上していましたが、金融商品に関する実務指針(日本公認会計士協会 会計制度委員会報告第14号)に定める要件を満たす金融資産と金融負債を相殺する方が当社グループの財政状態をより適切に表示できると判断し、第1四半期連結会計期間から相殺表示する方法へ変更しております。

前連結会計年度末の連結財務諸表等については、当該変更に伴う組替えを行っております。

この結果、遡及修正を行う前と比べて、前連結会計年度末の受取手形及び営業未収入金(流動資産)と支払手形及び営業未払金(流動負債)がそれぞれ2,343百万円減少しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,609,245	1,691,492
受取手形及び営業未収入金	4,975,555	5,315,427
リース債権及びリース投資資産	103,342	105,734
仕掛品	228	293
原材料及び貯蔵品	79,586	88,845
その他	749,322	716,957
貸倒引当金	△18,865	△2,086
流動資産合計	7,498,415	7,916,664
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,186,677	9,825,367
土地	8,889,911	8,889,911
その他(純額)	1,729,308	1,750,162
有形固定資産合計	20,805,896	20,465,442
無形固定資産		
投資その他の資産	235,526	201,281
投資有価証券	5,982,506	6,024,581
リース債権及びリース投資資産	1,348,502	1,300,623
その他	1,593,956	1,599,039
貸倒引当金	△4,000	△7,237
投資その他の資産合計	8,920,965	8,917,007
固定資産合計	29,962,388	29,583,731
資産合計	37,460,804	37,500,395
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	1,878,838	1,988,359
短期借入金	4,283,162	4,228,355
未払法人税等	85,105	121,520
引当金	234,678	242,392
その他	934,195	877,461
流動負債合計	7,415,979	7,458,088
固定負債		
長期借入金	8,207,800	7,934,170
引当金	73,960	73,960
退職給付に係る負債	2,577,638	2,495,179
資産除去債務	118,763	119,908
その他	2,196,602	2,114,128
固定負債合計	13,174,765	12,737,346
負債合計	20,590,744	20,195,434
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,412,524	3,412,524
資本剰余金	2,178,906	2,178,906
利益剰余金	11,393,853	11,697,335
自己株式	△292,688	△292,899
株主資本合計	16,692,596	16,995,867
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	622,110	706,544
退職給付に係る調整累計額	△444,647	△397,450
その他の包括利益累計額合計	177,462	309,093
純資産合計	16,870,059	17,304,960
負債純資産合計	37,460,804	37,500,395

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業収益	12,269,020	12,695,596
営業原価	11,502,543	11,821,989
営業総利益	766,477	873,606
販売費及び一般管理費	446,768	416,423
営業利益	319,709	457,183
営業外収益		
受取利息	1,594	1,754
受取配当金	57,106	60,841
持分法による投資利益	99,829	66,399
助成金収入	3,878	6,100
その他	17,003	15,532
営業外収益合計	179,411	150,628
営業外費用		
支払利息	67,795	49,883
その他	1,231	5,796
営業外費用合計	69,027	55,679
経常利益	430,093	552,132
特別利益		
固定資産売却益	1,466	3,737
補助金収入	16,778	—
投資有価証券売却益	1,736	—
特別利益合計	19,981	3,737
特別損失		
固定資産除売却損	4,967	2,464
子会社株式評価損	8,149	—
借入金繰上返済精算金	5,607	—
特別損失合計	18,724	2,464
税金等調整前四半期純利益	431,350	553,405
法人税、住民税及び事業税	133,889	180,343
法人税等調整額	19,629	△35,971
法人税等合計	153,518	144,371
四半期純利益	277,831	409,033
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	277,831	409,033
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	52,996	84,433
退職給付に係る調整額	△11,218	47,196
その他の包括利益合計	41,777	131,630
四半期包括利益	319,608	540,663
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	319,608	540,663

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	国内物流事業	国際物流事業	不動産事業	合計
営業収益				
外部顧客へ営業収益	7,243,291	4,868,879	156,850	12,269,020
セグメント間の内部営業収益 又は振替高	—	—	372	372
計	7,243,291	4,868,879	157,222	12,269,392
セグメント利益	546,498	44,378	61,231	652,108

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	652,108
全社費用及び全社営業外損益(注)	△222,015
四半期連結損益及び包括利益計算書の 経常利益	430,093

(注) 全社費用及び全社営業外損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び管理部門の営業外損益であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	国内物流事業	国際物流事業	不動産事業	合計
営業収益				
外部顧客へ営業収益	7,663,975	4,887,877	143,744	12,695,596
セグメント間の内部営業収益 又は振替高	—	—	534	534
計	7,663,975	4,887,877	144,278	12,696,130
セグメント利益	560,210	150,020	63,310	773,541

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	773,541
全社費用及び全社営業外損益(注)	△221,409
四半期連結損益及び包括利益計算書の 経常利益	552,132

(注) 全社費用及び全社営業外損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び管理部門の営業外損益であります。